

令和 7 年度 共同参画に関する市民意識調査結果について

1. 調査目的

令和 8 年度に策定を予定している第 5 次石狩市男女共同参画計画の基礎資料とするため、市民を対象とした意識調査を実施し、市民の男女共同参画に関する意識の変化や実態を把握するとともに、課題の分析等を行うために実施する

2. 対象者の抽出方法

市内在住の満 18 歳以上（令和 7 年 4 月末時点）の 1,200 名を、居住地区、年代、性別を均等に無作為抽出

3. 期間及び方法

期間：令和 7 年 7 月 1 日（火）～令和 7 年 7 月 15 日（火）

方法：対象者にアンケート書類一式を郵送、回答は返信用封筒による郵送または Web で実施

4. 回収結果

- ・回収数 221 人（うち WEB 回答 158 人）
- ・回収率 18.4%
- ・性別 男性 87 人、女性 131 人、答えない 2 人 無回答 1 人
- ・年代

	18 歳～ 20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代 以上	年齢 無回答
回収数	34 人	33 人	50 人	53 人	49 人	2 人
回収率	8.5%	16.5%	25.0%	26.5%	24.5%	—

5. 調査項目

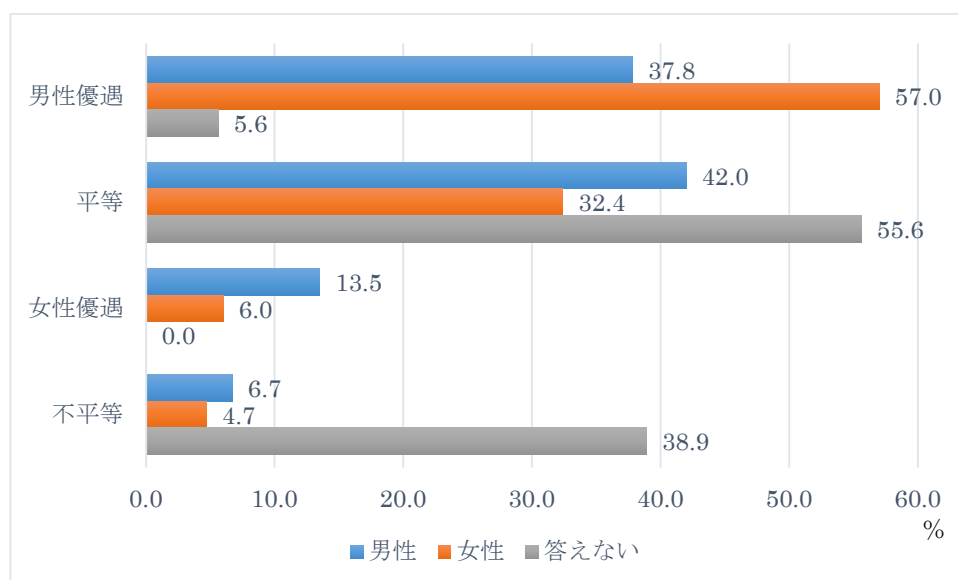
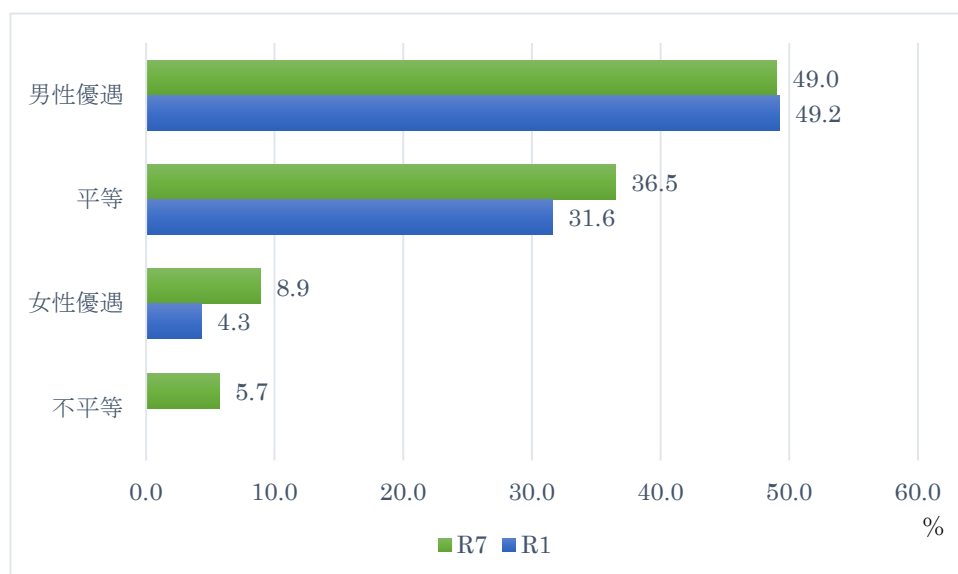
- （1）男女平等に関する意識について
- （2）家庭生活、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
- （3）交際相手や配偶者からの暴力（DV）について
- （4）職場等におけるハラスメントについて
- （5）LGBTQ+などの性的マイノリティについて
- （6）共同参画社会の形成に向けて
- （7）防災対策・災害復興対策について
- （8）アンケート全体について（自由記述）

6. 調査結果

(1) 男女平等に関する意識について

(家庭生活、職場や職業、自治会やPTAなど地域活動の中、学校教育、法律や制度の上、政治の場、社会通念や慣習しきたりの7項目について)

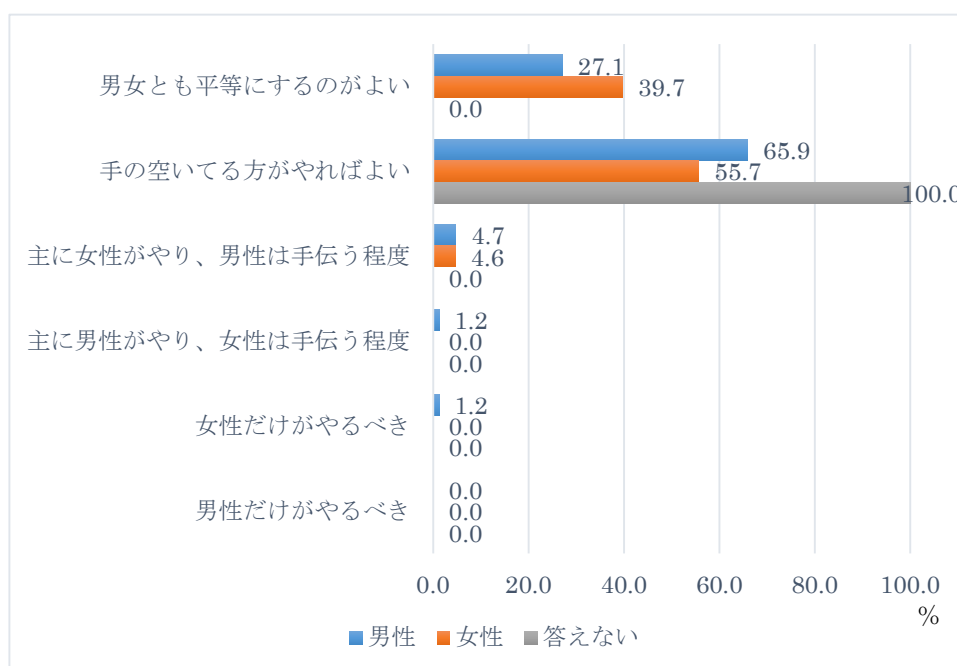
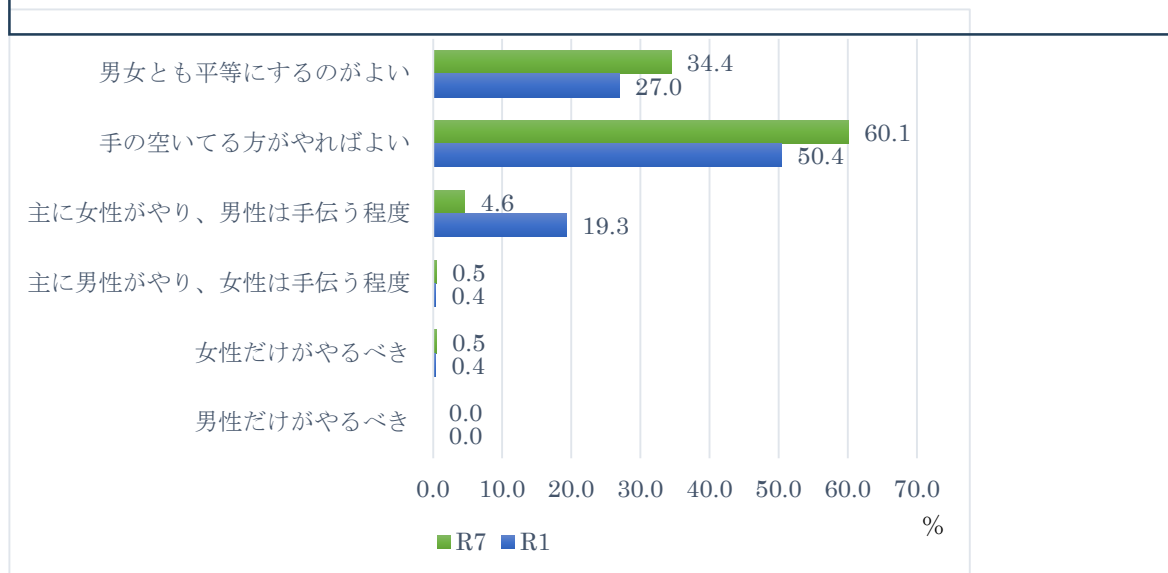
- ・「男女の地位は平等」と回答した人の割合は、前回（R1）調査から増加し、36.5%
- ・「男性優遇」と回答した女性の割合は57.0%で、男性より約20ポイント高い



(2) 家庭生活、仕事と生活の調査（ワーク・ライフ・バランス）について

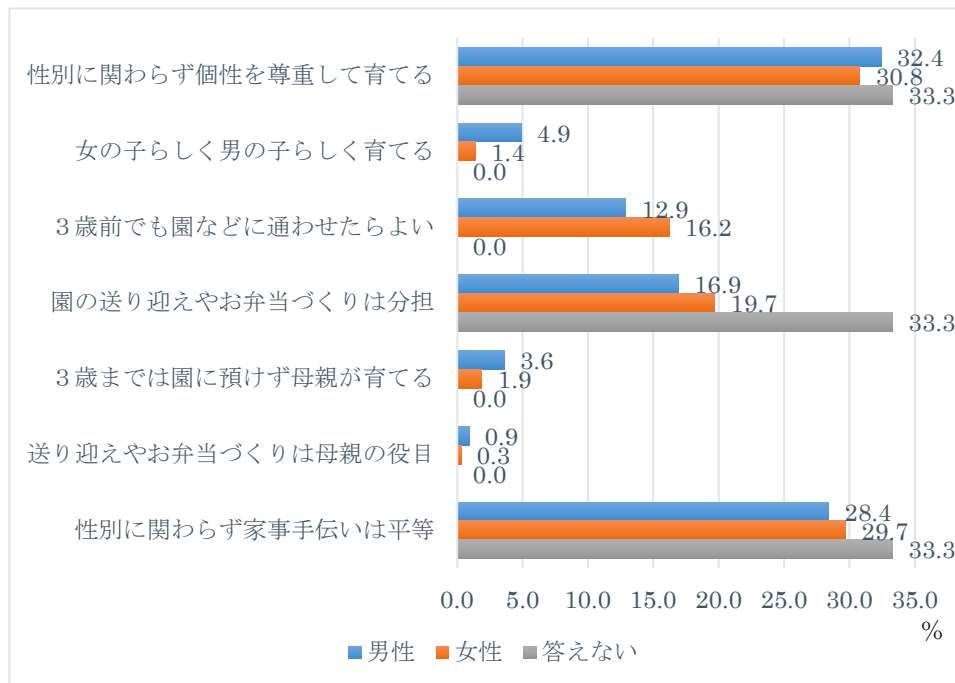
①家事や育児の役割分担について（あなたの考えにちかいもの）

- ・「男女とも平等に」と回答した人の割合は、前回（R1）調査から増加し、34.4%
- ・最も回答が多かったものは、性別に関わらず「手の空いている方がやればよい」



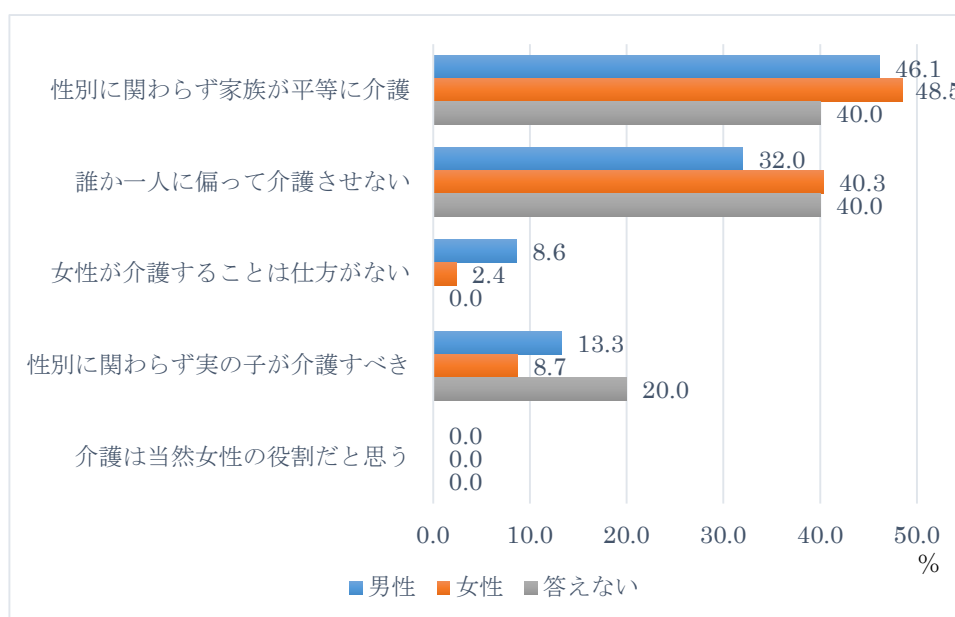
②子育てについて（あなたの考えにちかいものをいくつか）

- ・回答が多かったものは「性別に関わらず個性を尊重して育てる／家事手伝いは平等」
次いで、「園の送り迎えやお弁当づくりは分担」



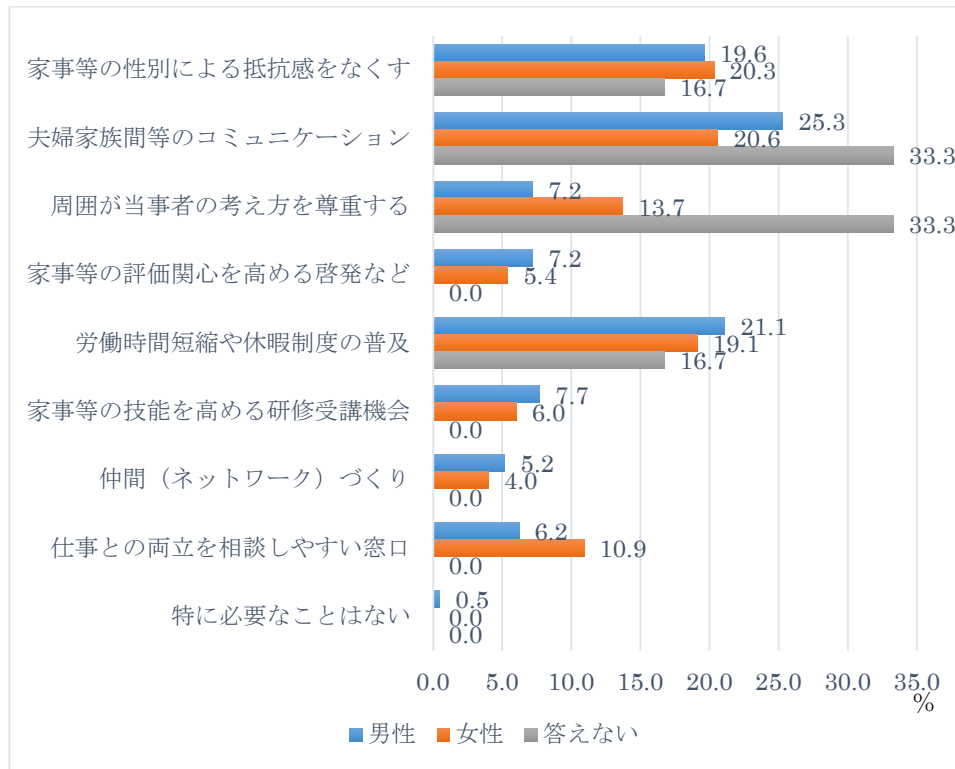
③家族が寝たきりになった場合の介護について（あなたの考えに近いものをいくつか）

- ・回答が多かったものは「性別に関わらず家族が平等に介護すべき」、次いで「誰か一人に偏って介護させない」



④性別に関わらず家族が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくために必要だと思うこと（3つまで）

- ・回答が多かったものは、「夫婦・家族間等のコミュニケーションをとる」、次いで「家事等に対して性別による抵抗感をなくす」「労働時間短縮や休暇制度の普及」



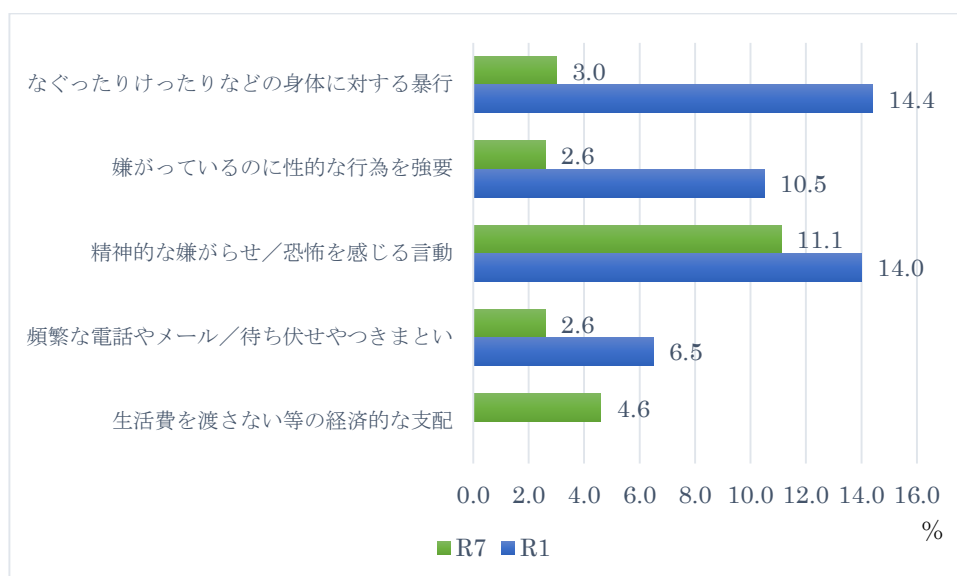
（３）交際相手や配偶者からの暴力（DV）について

①この５年間に交際相手や配偶者から次のようなことをされたことがあるか

※選択肢 ア：１，２度あった イ：何度もあった ウ：まったくない

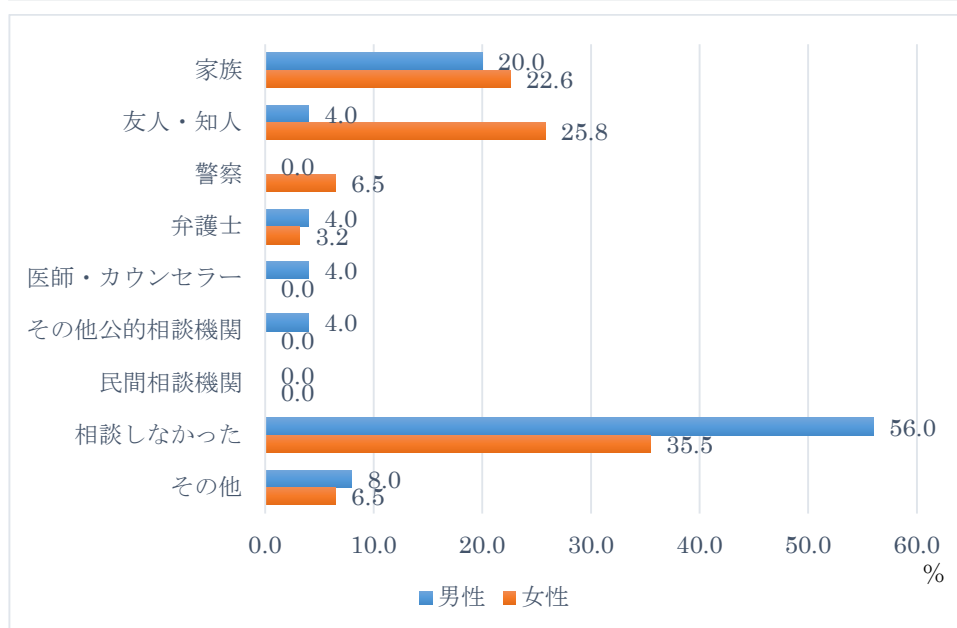
項目	選択肢	なぐったりけつたりなどの身体に対する暴行	嫌がっているのに性的な行為を強要	暴言や監視など精神的な嫌がらせ／恐怖を感じるような言動	頻繁な電話やメール／待ち伏せやつきまとい	生活費を渡さない、仕事をさせない等の経済的な支配
男性	ア	４人	０人	４人	１人	２人
	イ	０人	０人	３人	１人	１人
	ウ	75人	78人	72人	77人	76人
女性	ア	１人	４人	10人	２人	３人
	イ	１人	１人	５人	１人	３人
	ウ	114人	111人	102人	112人	110人
答えない	ア	０人	０人	０人	０人	０人
	イ	０人	０人	０人	０人	０人
	ウ	２人	２人	２人	２人	２人

- ・DVを受けたことがある人（ア・イ）のうち、最も回答が多かったものは、「暴言や監視など精神的な嫌がらせ／危害を加えられるのではないかと恐怖を感じるような言動」



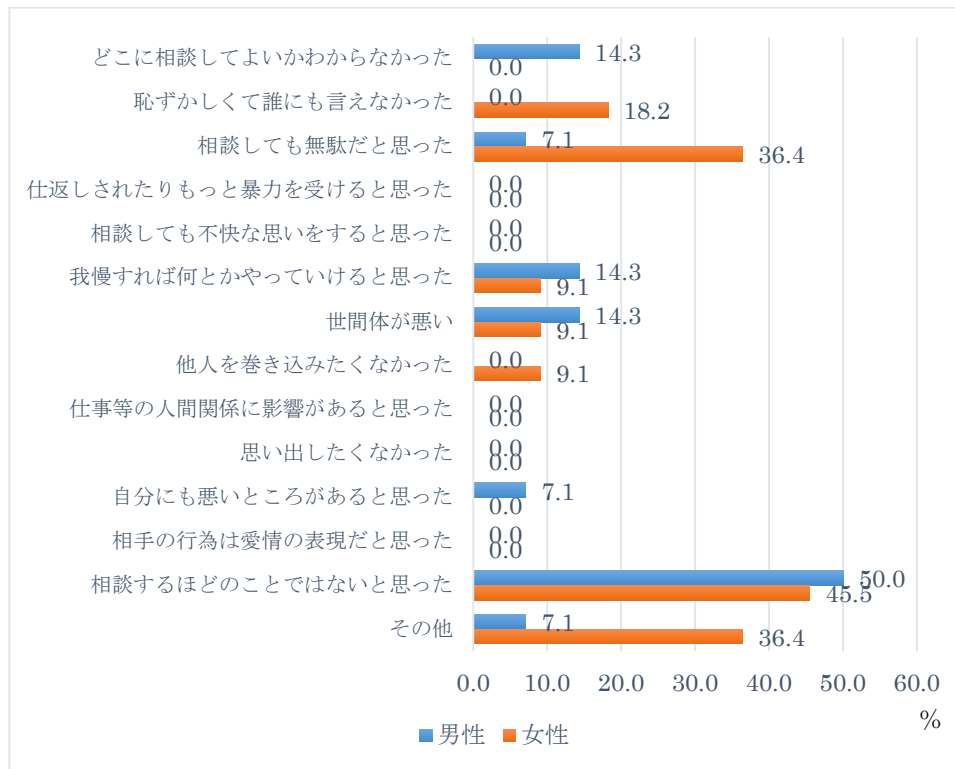
②その行為について誰かに相談したか（あてはまるものすべて）

- ・相談しなかった人の割合が最も多く、男性 56%（14 人）、女性 35.5%（女性 11 人）
- ・女性では 22.6%が「家族」に、25.8%が「友人・知人」にと身近な人に相談している



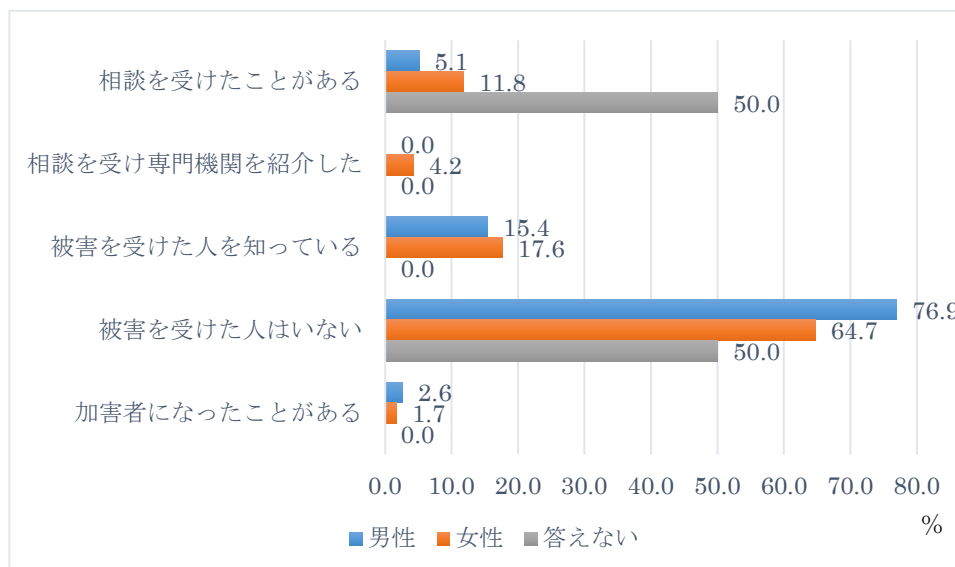
③相談しなかったのはなぜか（あてはまるものすべて）

- ・最も回答が多かったものは、男性・女性ともに「相談するほどのことではないと思った」
- ・相談しても無駄だと思った人の割合は、男性 7.1%に対し、女性 36.4%と差が大きい



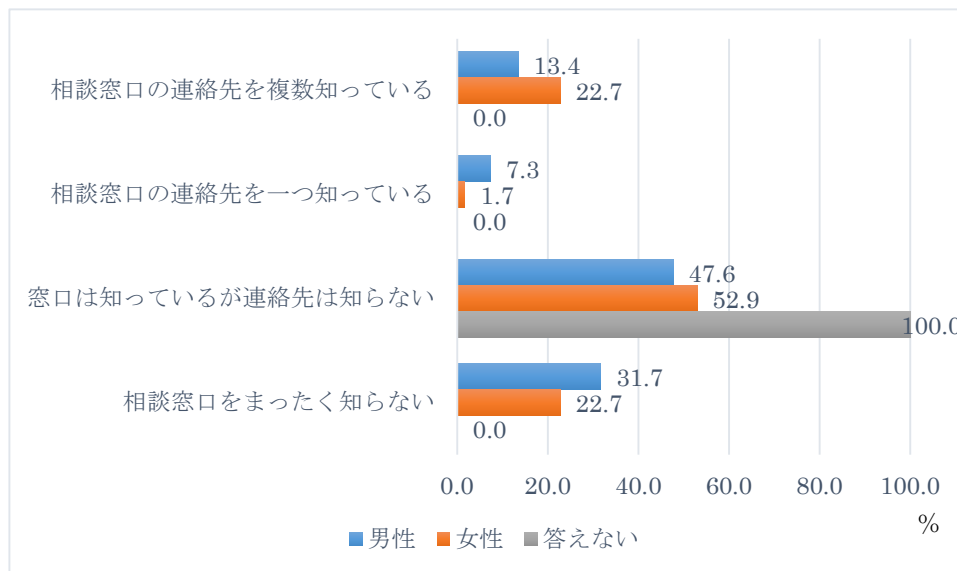
④DVを身近で見聞きしたことがあるか（あてはまるものすべて）

- ・最も回答が多かったものは、「身近で被害を受けた人はいない」
- ・DV被害を受けた人を見聞きしていても、相談を受け専門機関を紹介した人は少数



⑤DVについて相談できる窓口を知っていますか

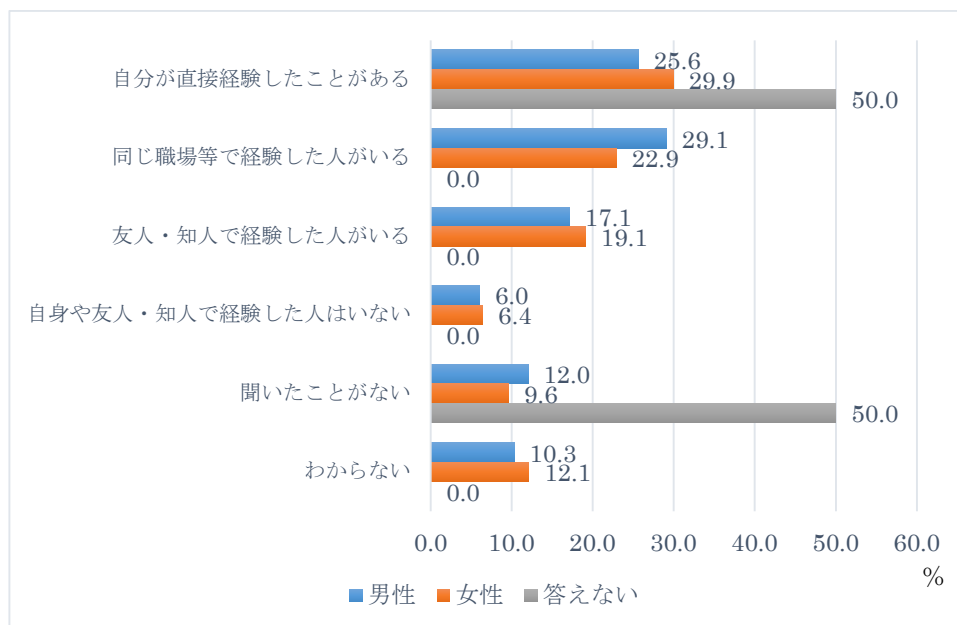
- ・相談窓口の連絡先を知っていると回答した人は合計で約 20%
- ・相談窓口のことを知っていても連絡先を知らないと回答した人が半数程度で最も多い



(4) 職場等におけるハラスメントについて

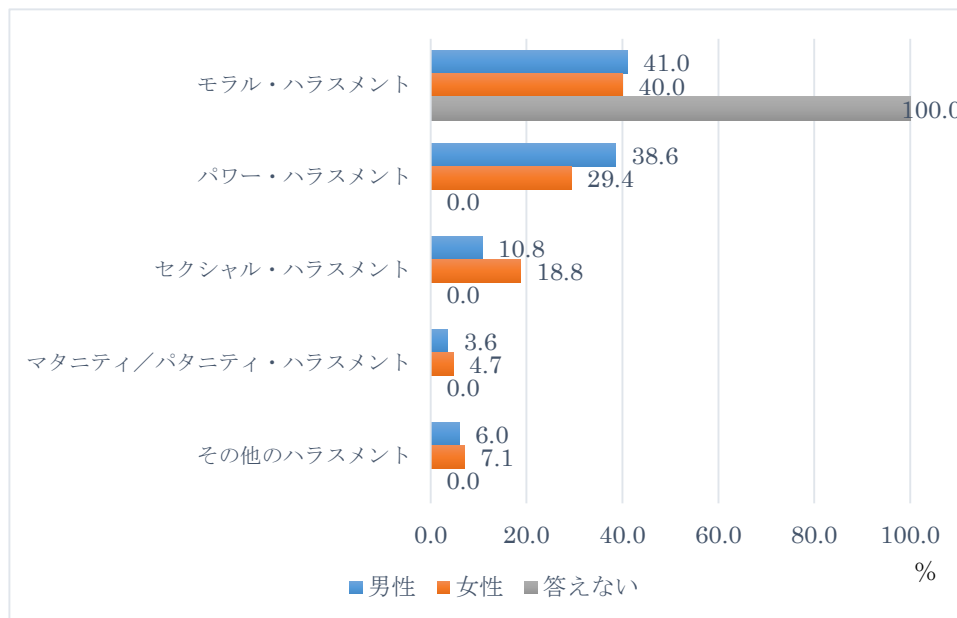
①ハラスメントやハラスメントと思われる経験をしたこと聞いたことがあるか (あてはまるものいくつかでも)

- ・ 3割程度の人が職場等でハラスメントを自身が経験したり、見聞きしている



②どのようなハラスメントを経験しましたか（いくつでも）

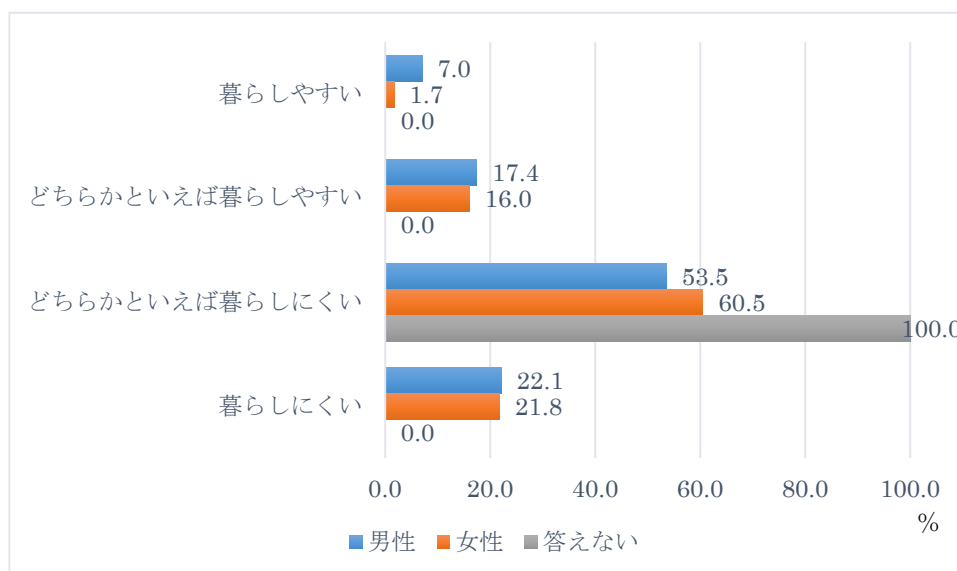
- ・性別に関わらず「モラハラ（言葉や態度等による精神的な嫌がらせ）」が最も多く、次いで「パワーハラ（地位や権力を利用した嫌がらせ）」「セクハラ（性的嫌がらせ）」の順



（５）LGBTQ+などの性的マイノリティについて

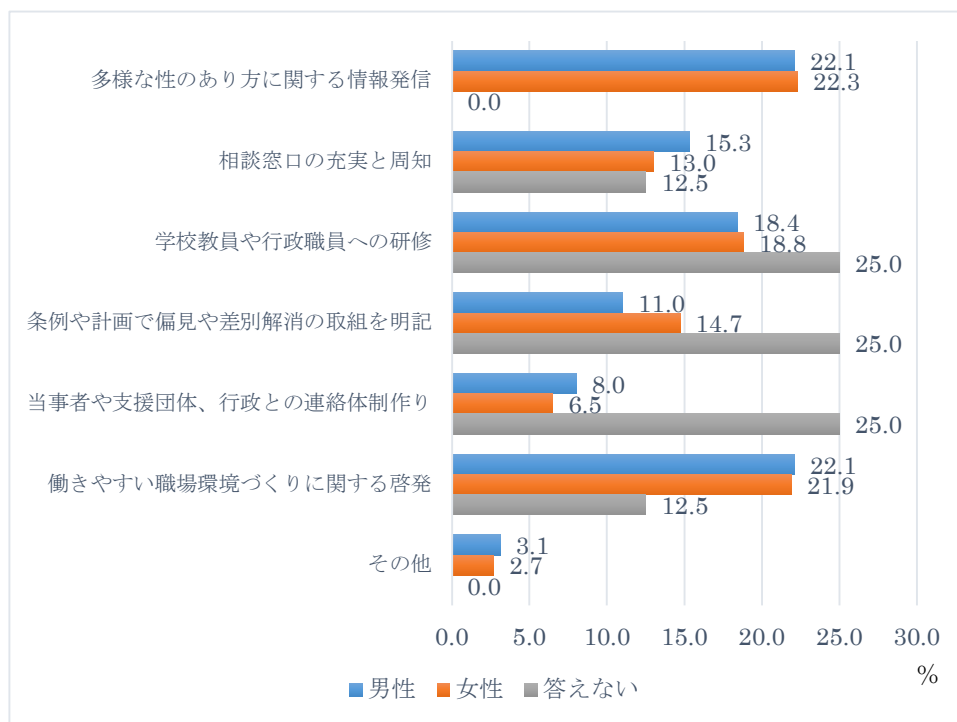
①性的マイノリティの方にとって暮らしやすい社会だと思うか（あなたの考えに近いもの）

- ・「どちらかといえば暮らしにくい」「暮らしにくい」と回答した人が全体の約80%



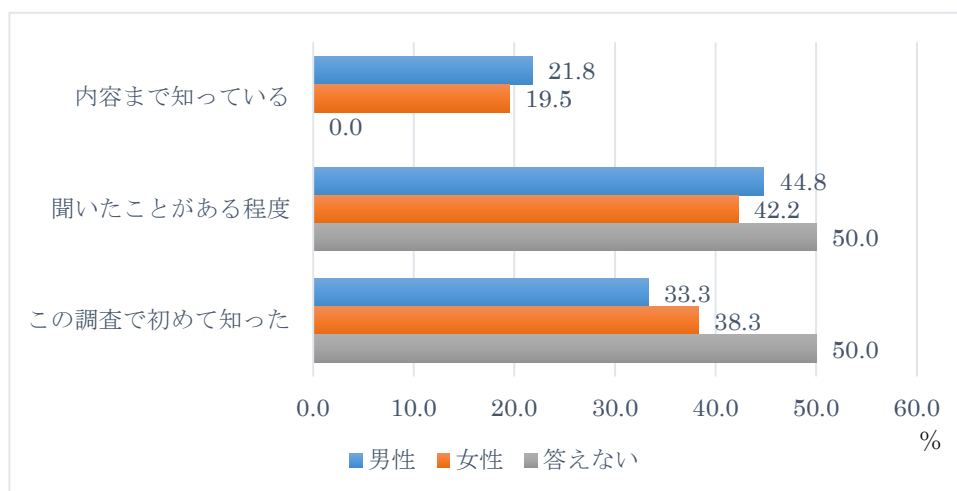
②性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし誰もが暮らしやすい社会を作るため、市はどのような事に取り組む必要があるか（あなたの考えに近いものをいくつか）

- ・回答が多かったものは、「多様な性のあり方に関する情報発信」「働きやすい職場環境づくりに関する啓発」、次いで「学校教員や行政職員への研修」「相談窓口の充実と周知」の順



③パートナーシップ宣誓制度を知っているか

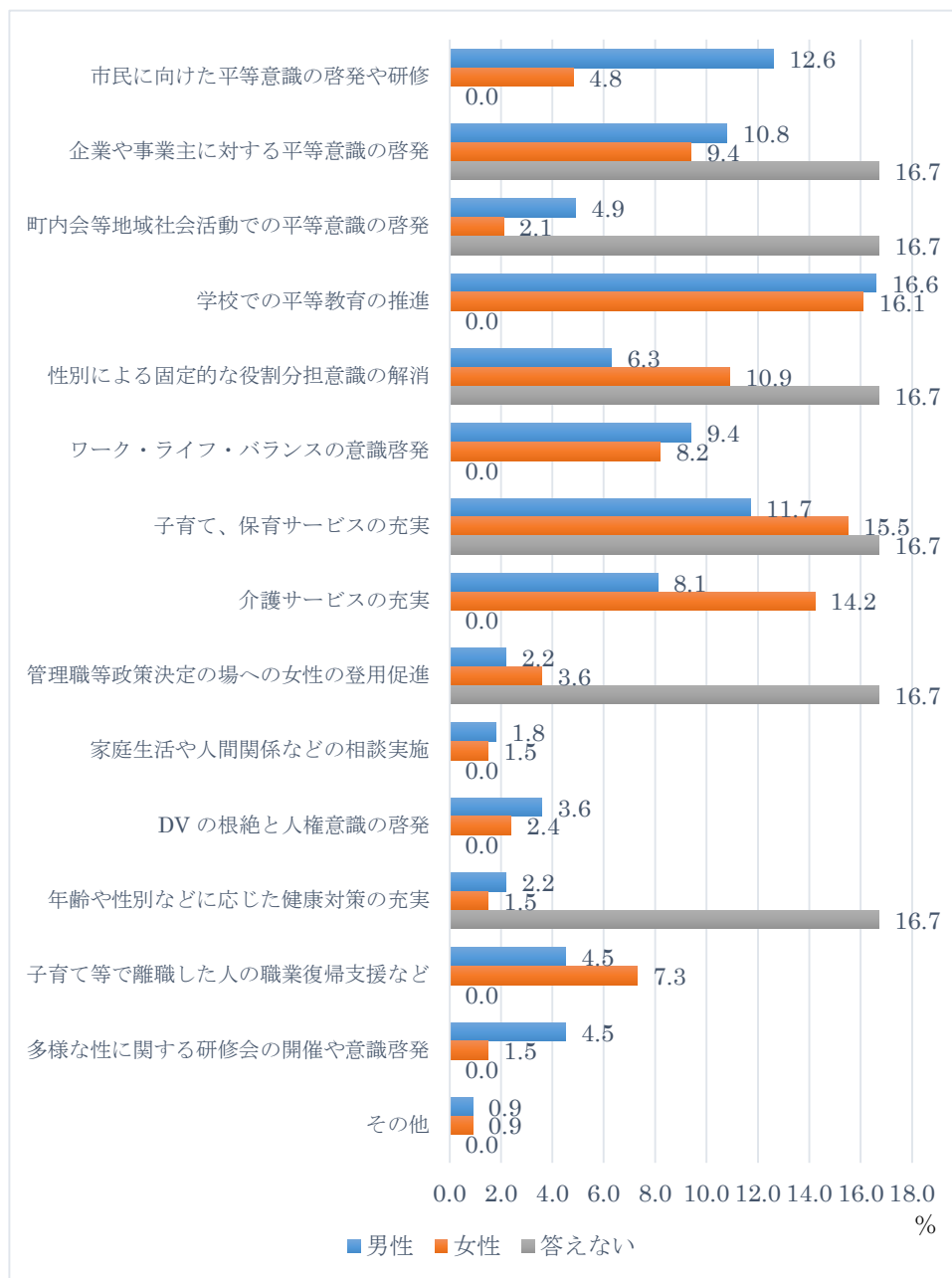
- ・最も回答が多かったものは「聞いたことがある程度」、「内容まで知っている」は約 20%



(6) 共同参画の形成に向けて

①共同参画社会を実現するため、市はどのようなことに力を入れていくべきか（3つまで）

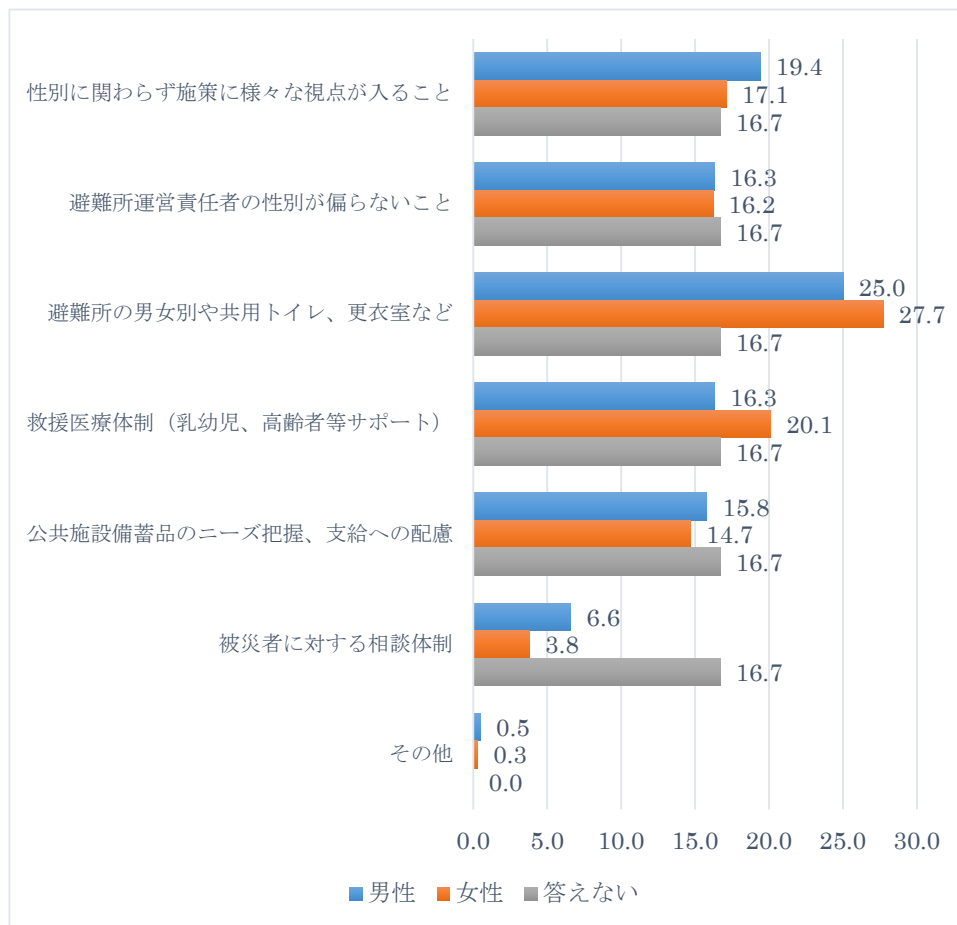
- ・回答が多かったものは、「学校での平等教育の推進」「子育て、保育サービスの充実」、次いで「介護サービスの充実」「企業や事業主に対する平等意識の啓発」の順



（７）防災対策・災害復興対策について

①防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応として必要なこと（３つまで）

- ・回答が多かったものは、「避難所の男女別や共用トイレ、更衣室など」、次いで「救援医療体制（乳幼児、高齢者等サポート）」「性別に関わらず施策に様々な視点が入ること」の順



（８）アンケート全体について（自由記述）※一部抜粋

- ・自分が学生時代に学んだ時に比べると、男女の平等化は進んでいると考える。しかし職場では今でも古い価値観を持っている人が多数いるため、改善してほしいところは多々あります。
- ・若い世代では男女差別の意識は徐々に薄れてきていると感じますが、家庭環境によっては依然として根強く残っているとも感じます。そのため子どもの頃からの教育を通じて、互いを尊重し合う意識を育むことが重要だと思います。正しい知識の普及とあわせて、社会全体で公平な考え方や対応ができるようなルールや制度を見直し、整えていくことも必要だと感じます。
- ・男女平等といっても結局は家事、子育ては女性の役割、男性はお手伝い、という意識はなくなっていないように思います。職場の昇進についても、同じ年齢であっても男性の方が先に昇進している印象です。一度無意識に染み付いた考え方が変わるのはなかなか難しいと感じています。
- ・DVについては法的責任を重くすべきだと思う。LGBTQ+はまだ偏見意識が強く、一般化するのに時間がかかると思う。無理に過激な変革をせず、幼少期からの教育で変えていくべき。